

梅光学院幼稚園 学校評価報告書 <2023 年度>

2024 年 2 月 28 日

<2023 年度 年間主題> ともにつむぎだす ～きぼうのなかで～

園の方針

<教育方針>

- ① ともだちいっぱい ～柔軟性のある世界観を養う～
- ② たのしさいっぱい ～遊びを中心にした保育～
- ③ イエスさまといっしょ～キリスト教信仰に基づく保育～

<中長期計画・重点目標>

1. 神の下の自己受容と他者受容（自らが神と人々に愛されている存在であること、また他者も同様であることを伝える。）
2. 自然からの学ぶ（自然とのかかわりを通して、身心を鍛え、表現力と自然や人とかかわり合う力を養う。）
3. 異文化交流（豊かな表現や人とかかわりを通して、柔軟性のある世界観を養う。）
4. 園児の安定的確保
5. 地域連携
6. 各種学校との積極的交流
7. 安全な保育環境の提供
8. 保護者の満足度向上

<各クラス目標>

○年少目標：神様、先生に受け止められ、安心して園生活を送る。

○年中目標：基本的な生活習慣を知り、必要な態度や習慣を身につけながら意欲的に生活する。友だちや教師との関わりの中で相手の思いに気づき、一緒に活動することを楽しむ。いろいろな遊びに興味関心をもち、自分のイメージを実現したり、全身を動かして遊ぶ楽しさを味わったりする。

○年長目標：友だちの良さや違いを認め合いながら、力を合わせて遊びを進める中で自分なりに考え、判断して行動しようとする。また、基本的な生活習慣や態度の意味を理解して、自主的に行動

する。

- 2歳児親子教室（こひつじグループ）：子どもも親も、神さまの安らぎのうちに安心して育ち合う。
親子で幼稚園に慣れ、安心と親しみを持つことで幼稚園生活に円滑に移行できるようにする。
友だちや先生と一緒に遊ぶことを楽しむ。
同年齢の小グループで、育ちや季節に沿った様々な活動を経験する。

- ふろむぜろ：地域の子育て支援として、小さな子どもを持つ親の安心できる居場所となり、悩みや喜びを共有する。

●教育課程・指導

評価項目	評価のまとめ
教育目標	<p>○「ともだちいっぱい たのしさいっぱい イエスさまといっしょ」を3本柱とする教育方針の理解が教職員・保護者共に定着し、園児にも発達段階に応じた活動を通して定着してきた。保育活動全般の基盤として実践されている。「キリスト教保育」と「遊びを通じた学び」の両面からの実践を深めることが出来た。</p> <p>○今年度は、合同礼拝を定期的に行い、聖書のみ言葉からこの3本柱を自分の生活や、思いと関連させていくことができた。</p> <p>○毎月行う誕生会では、園長が子ども達一人ひとりに手を置き祈り、親子で神様に愛されて生まれた喜びを共有できた。</p> <p>○今後の課題として、柔軟性のある世界観を養うために、学院を通して留学生などと交わるなどの実際の体験が増えていくよう希望する。</p>
教育課程の編成・実施	<p>○各担任が園児の現状を把握して立てた年間計画・期案等による見通しを持って、園児の主体的活動の発展可能性に着目しながら、柔軟性のある保育を心がけた。</p> <p>○期案・週案やその記録についてデータベース化を推進し、情報の共有化・ペーパーレス化を推進した。</p> <p>○日々保育の共有を職員会議で行った。毎週の職員の聖書の学び会においてキリスト教保育のねらいを確認できた。</p> <p>○教師間の細やかな伝達、共有により一人ひとりの園児理解、保育のつながりや連続性のある発達を意識した教育課程を柔軟に編成していく事が出来た。</p> <p>○『幼稚園教育要領』に基づき、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視野に入れながら実践した。</p> <p>○運動会、クリスマス祝会、ひかりのこ発表会等の諸行事は、今年度もクラス別に実施した。行事を子どもに合わせて無理なく準備したことによって、各年齢に則した成長が</p>

	<p>見られ、保護者の理解と協力を得て、概ね良好に実施できた。</p> <p>○支援の必要な子どもに関しても、教師が情報をよく共有し療育機関と保護者と協力し、一人ひとりの子どもに指導計画を作成し、支援を行った。</p>
教育日数	<p>○教育日数は 39 週を満たしている。(年長 42 週・年少年中 43 週)</p> <p>○保育時間 通常保育 6 時間、午前育保 3 時間 平均 4 時間以上を満たしている。</p>
教育活動の成果	<p>○各クラスでの日々の礼拝を守り、聖書や讃美歌に親しんできた。毎月の聖句や讃美歌を定めて全員で唱えたり歌ったりすることを通して温かい心の育成に努めてきた。合同礼拝を通して神様の愛を喜び、日常生活の中で神への願いと感謝する心を養ってきた。園児には主体的な祈りの態度や言葉が増えた。</p> <p>○年長・年中児を中心に自然体験や社会体験の場が持てるように努めた。みさかの森自然活動では五感を用いた豊かな体験ができるように配慮した。</p> <p>○異年齢と関わる活動を積極的に推進し、模倣したり、教え合ったりする遊びやお互いを尊重し合う活動の姿が見られた。</p> <p>○英語活動をプレイフル・ラーニングの重要な柱の一つとして位置づけた。各年級に応じた活動を通して、コミュニケーションを楽しみ、共感する力や実践的英語力が確実に伸びてきている。幼稚園のカリキュラムで培った実践的英語力と多様性の理解を続けて学べるプログラムが必要。保護者には、英語教育の講演会・英語参観等を工夫し、幼児期に英語教育の基盤を築くことの大切さを伝えてきた。</p> <p>○年長クラスにおいて、梅光学院大学の難波克己先生によるプレイフル・ラーニング(AFPY 的活動)を前期のみ実施した。継続する運動能力を高めるプログラムがあることが望ましい。</p>
行事	<p>○運動会や「ひかりのこ発表会」等の各行事は、子どもたちの主体的な活動や遊び、取り組みから発展した活動とすることで、子どもたちにとって楽しくやりがいのある活動となるように工夫した。</p> <p>○天候条件やコロナ禍等、与えられた条件を積極的に受け止めながら行事の可能性を探っていた。2 学期に計画していた親子遠足は、雨天のため中止となったが、雨天時にも屋内の施設に行くなど工夫が必要。</p> <p>○運動会は、コロナ対策として、年少、年中合同、年長のみと、2 回に分けて実施した。昨年度に引き続き、ゆっくりと参観できたとの声が多かった。年長児の竹馬の種目など年齢に応じた内容で子ども達の成長を感じられた。家庭に向けて会場の様子をリモート配信した。</p> <p>○「ひかりのこ発表会」もクラスごとの実施とした。会場の様子はリモート配信した。会場の収容人数は、クラスごと実施が適切であった。今年度は、祖父母の参観もあった。</p>

評価項目	評価のまとめ
幼小連携・進路	<p>○年長児クラスによる熊野小学校との幼小連携プログラムを 2 回行い、園児は小学校への期待感が高まった。</p> <p>○年長組教師が、幾つかの小学校に参観、意見交換のため訪問。幼稚園生活の理解の共有、異校種等連携のよい機会となった。</p>
研究・研修	<p>○前年度に引き続き山口県私立幼稚園協会の共同研究を行った。ふくふくこども館の幼稚園のイベントに協力参加し各園との具体的な連携に努めた。</p> <p>○教職員の聖書の学びを職員会議や日常的な会議の中で実施した。</p> <p>○教師達の研修の機会は次第に増え始め、対面研修やオンライン研修へ参加できた。園長、副園長、事務長で園の運営、戦略のセミナーに参加。今後も園外研修・園内研修を積極的に実施していきたい。</p> <p>○大学の講義室で寺井先生より教師セミナーを行い、大学図書館も利用。今後もこのような連携のある研修を増やしたい。</p> <p>○下関警察署による不審者対応研修を実施する。</p> <p>○園医金原先生による子どもの様々な支援についての講義を受講した。</p>

●組織・運営

評価項目	評価のまとめ
経営・組織	<p>○園児数は、ここ 3 年定員を大幅に割れている。また今後更に進む少子化傾向、入園の低年齢化により、来年度から満三歳児の受け入れを決定する。早期の施設整備が課題である。(第二園舎の子ども用トイレ、洗面所設置)</p> <p>○教職員の安定した人材確保・育成を継続して行う。</p> <p>○預かり保育の延長(18:30まで)、登園・降園時のバス添乗、休憩時間の確保等も踏まえ、教職員の勤務の適正化と保育・教育のバランスを工夫していく必要がある。</p> <p>○今年度も変形労働制とした。急な勤務時間等の変更は難しいので、今後も計画的な運営が必要である。</p> <p>○社会のニーズに合わせ、認定こども園に移行していく準備が必要。その為、専門家によるアドバイス、学び会、研修を行いたい。</p>

●安全管理・保健管理

評価項目	評価のまとめ
安全管理	<p>○学校安全管理計画に基づき、学期末ごとに安全管理のチェックを実施、対応。園庭と駐車場の間の柵を高くする。</p> <p>○避難訓練は消防署と連携して、計画的に推進した。2学期には消防車が園庭に入り消火訓練も行う。</p> <p>○不審者侵入防止対策として防犯カメラを外に3台設置。</p> <p>○保護者との引き渡し訓練を計画するが、感染症の拡大により、中止。来年度実施予定。</p> <p>○3学期、年長組のみ親子交通安全教室を実施。</p> <p>○国内で連続発生している園バス等による事故対応のため、園児取り残し防止ブザー設置。また、感染症予防として、車内に空気清浄機を補助金により設置。継続して運行マニュアル等の工夫改善と教職員研修により、安全な運行に努めたい。</p>
保健管理	<p>○学校保健計画に基づき健康診断等を実施した。</p> <p>○職員、園児に、感染者が出た場合、速やかに保護者にメール配信し、注意を呼びかけた。</p> <p>○金原園医による健康診断、5歳児発達相談等の機会に、保護者からの相談・教師の気づき等を相談した。療育・訓練機関等と連携して保育に活かした。また、医師による診断はないが今後支援が必要となると予想される幼児が増えていることへの対応が課題である。</p> <p>○歯科検査の結果を家庭へ周知し、各家庭で治療・予防するよう呼びかけた。</p>

●情報提供

評価項目	評価のまとめ
アンケート結果 ホームページ	<p>○保護者対象アンケート 総合評価は概ね満足という結果であったが、個別に対応が必要な意見もあり、丁寧なフィードバックが今後も必要である。</p> <p>○ホームページの更新に努め、適時、新鮮な情報となるよう努めた。今年度からインスタグラムも開始。園児数確保の観点からも画面情報のきめ細かい更新作業は今</p>

	<p>後も工夫が必要である。ホームページは、もっと分かりやすく新しく刷新の予定。</p> <p>○ドキュメンテーションを保護者へ日常の子どもたちの様子、園での取り組みを配信するために昨年度後半から導入した。れんらくアプリから写真、動画、記事を見ることができるため教職員にとって扱いやすく、閲覧回数は、かなり増えてきている。園だよりやお知らせ、日常の園での園児の様子等を配信していくことで、保護者にとっても身近なものとなっている。</p> <p>また、ドキュメンテーションでの写真掲載の注意事項確認や、平等に掲載する、教師の負担にならないようにするなど課題もある。</p>
特別支援教育	<p>○支援児はさらに対象が増えることは確実である。加配の教師の確保、クラス運営の側面からからも、願書受付後の面接で発達状況をよく確認し、受け入れについて教師間で情報共有し、園長の承認のもと決定した。今後もこの様にしていくのかは検討が必要。</p> <p>○家庭や専門機関（こども発達センター・ぽけっと・各小児科医・児童相談所等）との連携や職員会議での情報共有に努めている。</p> <p>○特別支援を要する園児やその可能性のある園児、課題を抱える園児については、保護者との対面での情報交換を密に行った。今後もよりよい支援に繋ぎたい。</p>

●保護者・地域社会との連携

評価項目	評価のまとめ
保護者との連携	<p>○定期的にバイブルカフェを開催し、幼稚園で歌っている賛美を紹介したり聖書から子育てを学ぶ時間を持った。（年4回）</p> <p>○クリスマス講演会(保護者向け)では、梅光中高の山田ホールで、大宮香織さんによるクリスマスコンサートを実施した。（ベビーシッターブース設置）</p> <p>○現在も保護者会の活動は休止し行事等は園が中心となって実施した。次年度は、保護者との新しい連携を工夫していく必要がある。（梅光ルーキスチャーチとの連携）</p>
地域との連携	<p>○クラス懇談会、個人懇談会も、リモートと対面で実施とした。保育参観でも親子の交流を行う。</p> <p>○児童館のイベント（マジックショー・腹話術）へ参加した、権現山遠足・散歩、深坂の森自然体験等、子どもたちが本物の自然等に触れ合う活動ができた。</p> <p>○花の日礼拝のお花を、花束にして、園医さんや、施設に届けた。</p> <p>○収穫感謝礼拝で捧げられた野菜や、果物を、子どもからの手紙と一緒に、生野きらきら子ども食堂に届けた。</p>

	○次年度は、梅光ルーキスチャーチとの連携により、卒園児、保護者、地域との関わりを深めて行きたい。
--	--

●子育て支援

評価項目	評価のまとめ
ふろむぜろ	○地域に貢献できる幼稚園の役割として、園舎を開放し、未就園児と親が安心して楽しく過ごすことのできる場を提供した。保護者の悩み相談、アドバイスや助言等を行った。教師が継続して部屋に滞在する事が難しく、新しい改革を検討する。
こひつじグループ	○こひつじグループでは、未就園児の育成とともに保護者教育の一端を担う重要な役割があることを踏まえて2グループに分けて活動した。(火、木クラス) 入園に繋がる可能性も高いが、保護者からは満三歳児クラスの要望もあり、来年度開設。こひつじグループの形も検討が必要。 ○ふろむぜろ・こひつじグループともに本園への就園に繋がる重要な機会であるため、ホームページ、インスタグラムなどで周知に努める。

●預かり保育

評価項目	評価のまとめ
状況・人数・時間	○今年度も18時半までの預かり保育を継続した。この時間帯までの利用者は少ないが、今後の社会情勢やニーズを見据えて充実・工夫する必要がある。 ○今後、国の子育て支援制度(子ども誰でも通園制度など)により、長時間の預かりが見込まれる。安全面、保育面の充実からも、教師2名体制が必要。 ○年少児は、園生活に慣れるまでの3ヶ月は預かりをしないことを基本としつつ、集団生活経験者等については、個々に判断して受け入れを検討した。 就労者優先ではあるが、子育て支援の面からも幅広い受け入れを検討したい。

●学院(大学・中学・高等学校)との連携

評価項目	評価のまとめ
大学との連携	○月に2回開催される学校間連絡会議に、園長、副園長が参加し、学院の各学校種との情報共有を行なった。

<p>子ども学部・他学部との連携</p>	<p>○大学の難波克己先生を講師に迎え、年長クラスでプレイフル・ラーニングを1学期のみ継続した。今後も大学や中高の教師と連携して多様な体験、学びができるよう希望。(音楽、体育、陶芸、絵画など)</p> <p>○教師の研修会を大学の講義室で行い、講師を寺井先生にお願いし、良い学びの時となった。</p> <p>○大学より先生が園児の音楽活動を見学に来たり、卒業制作の発表、課題などのために学生が来園。</p> <p>○教育実習・フィールドワーク等を積極的に受け入れた。</p>
<p>中学・高等学校との連携</p>	<p>○高校生の留学生(フランス)が、自分の国の紹介のため来園。</p> <p>○保護者向けクリスマスコンサートを中高で開催。</p> <p>○市民会館で行われた学院のクリスマス会に年長組が参加。</p>

●保育環境整備

評価項目	評価のまとめ
<p>・施設・設備の安全</p> <p>・維持管理</p>	<p>○定期的に施設・設備の安全点検を行い、事故等の未然防止に努めた。</p> <p>○支援児のための教具を補助金にて購入。年齢に則した教具や環境整備の研修をうけ、保育の充実を図っていききたい。</p>
<p>遊具・用具</p>	<p>○コロナ禍対策として、遊具・用具等の消毒作業を念入りに行った。</p> <p>○年次的に古くなった園舎内の遊具等を入れ替える必要が出てきた。</p>

●園児募集について

評価項目	評価のまとめ
<p>募集定員</p>	<p>○定員数は、年少クラス：30名、年中クラス：30名、年長クラス：30名 合計90名である。園児の安定した充足に向けた工夫が必要である。(満三歳児の受け入れ)</p> <p>○ふろむぜろとこひつじグループについては、定員充足のための重要な活動であるので、アイデアを生かした計画的な利用促進を図る。</p>

○新規募集時期等を工夫する等、工夫改善が必要である。(オープンスクールの開催時期について検討が必要。)

<園児数> (2月28日現在)

2022年度：年少24名、年中29名、年長28名 合計81名

2023年度現在：年少23名、年中25名、年長27名 合計75名

2024年度予定：年少23名、年中23名、年長24名 合計70名